

**第3回 平成29年度  
三重県河川整備計画  
流域委員会**

**一級河川鈴鹿川水系（指定区間）**

平成29年8月3日





# 目次

1. 鈴鹿川流域の概要
2. 主要洪水の概要
3. 河川の整備状況〔指定区間〕
4. 河川の整備状況〔直轄区間〕
5. 河川整備計画〔指定区間〕の概要
6. 河道の変遷
7. 河川の利用状況
8. 対象3河川の流域環境
9. 河川整備計画の見直し方針
10. 今後の予定



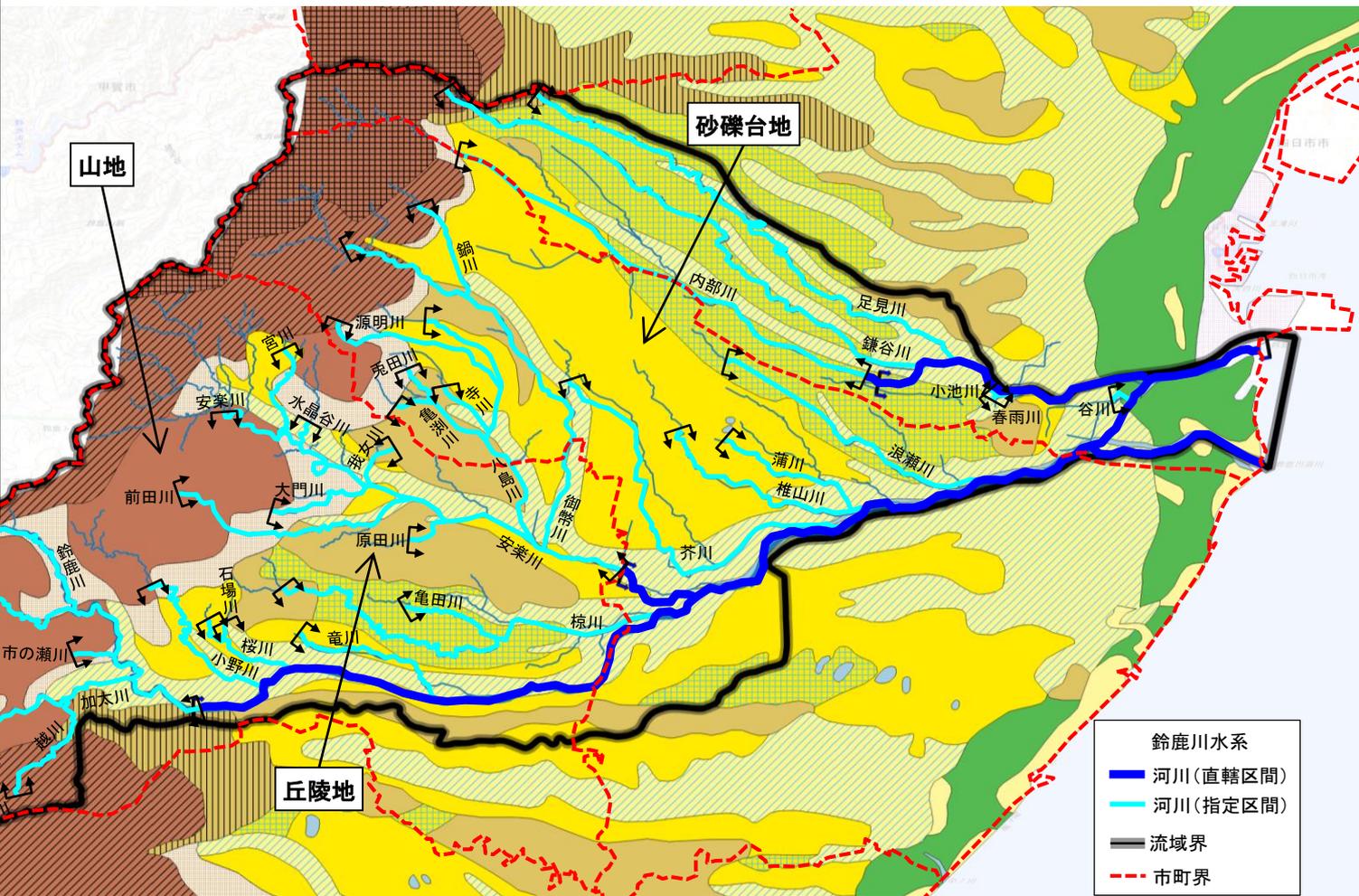
# 1. 鈴鹿川流域の概要



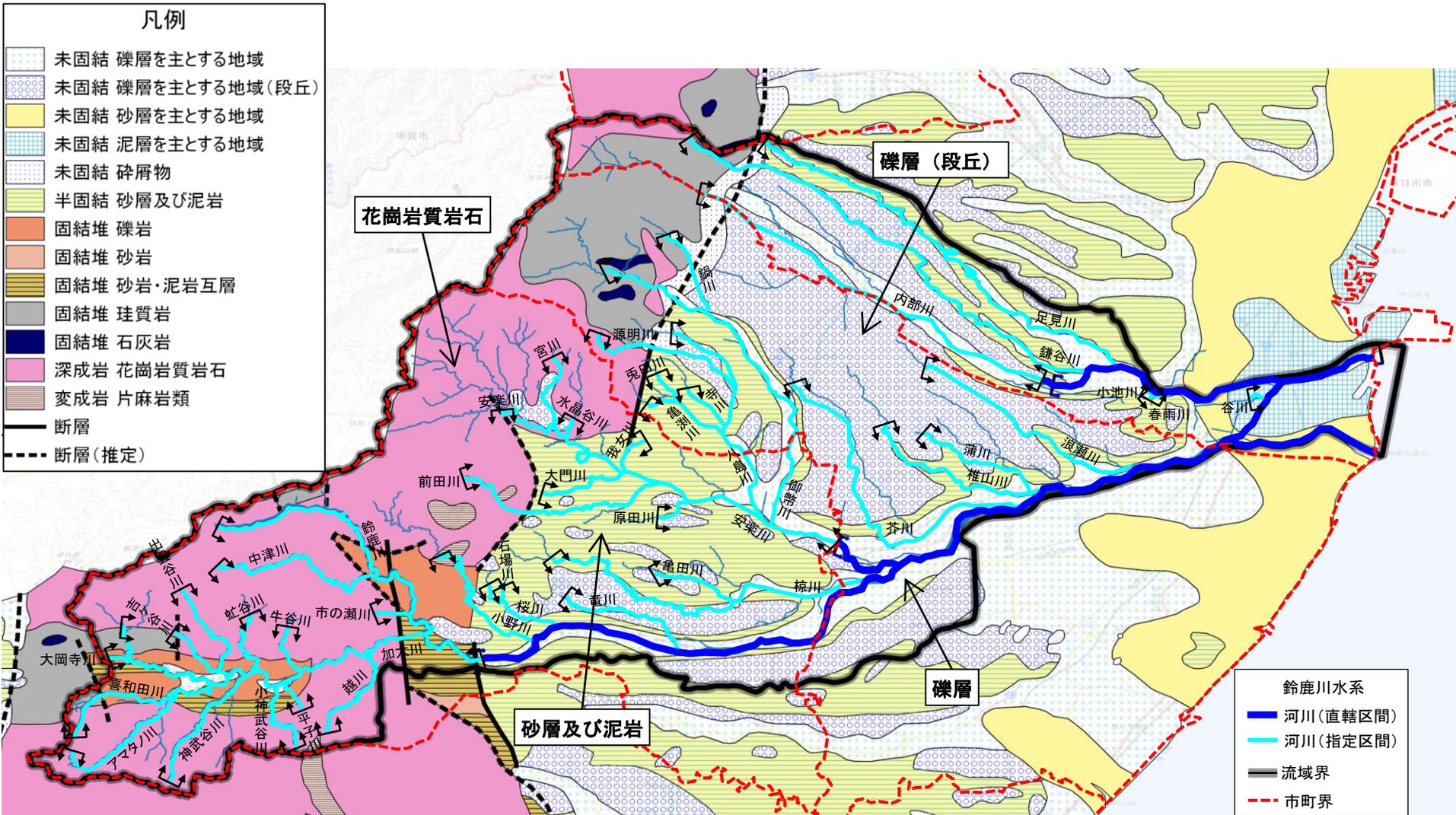
□ 鈴鹿川本川および支川の沿川は扇状地性低地となっており、支川はV字谷を形成して流下している。

### 凡例

- 山地 大起伏山地
- 山地 中起伏山地
- 山地 小起伏山地
- 山地 山麓地
- 丘陵地 大起伏丘陵地
- 丘陵地 小起伏丘陵地
- 台地段丘 砂礫台地(上位)
- 台地段丘 砂礫台地(下位)
- 低地 扇状地性低地
- 低地 三角州性低地
- 低地 自然堤防・砂丘・砂丘
- 低地 埋立地
- 低地 干拓地
- 低地 河川・湖沼



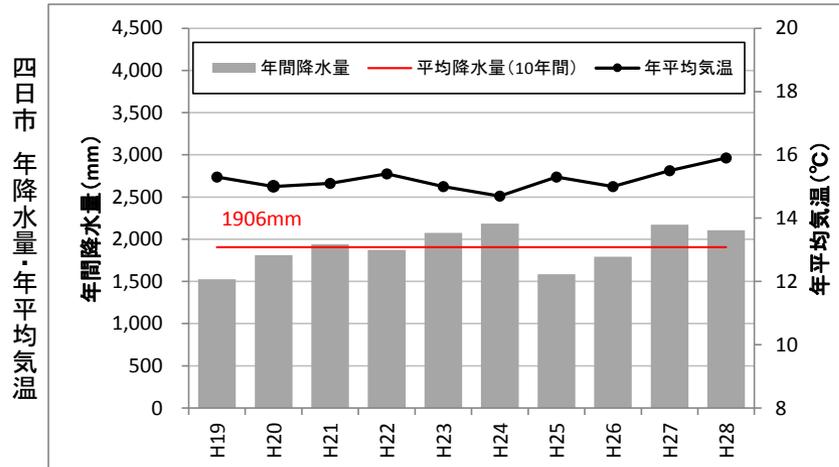
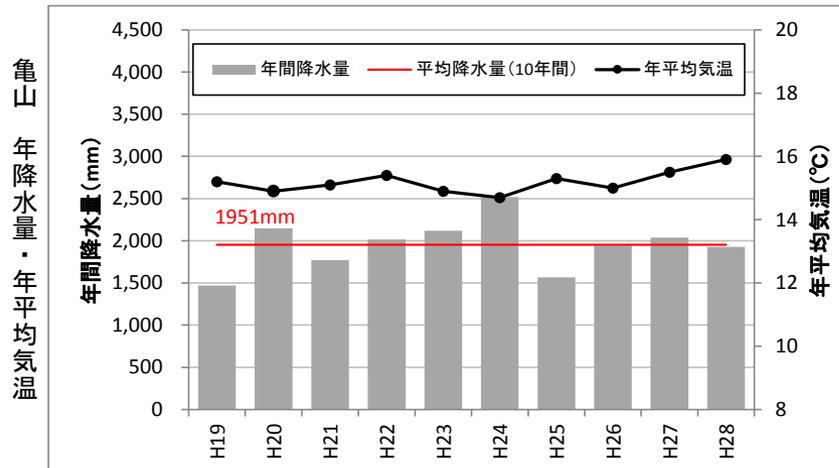
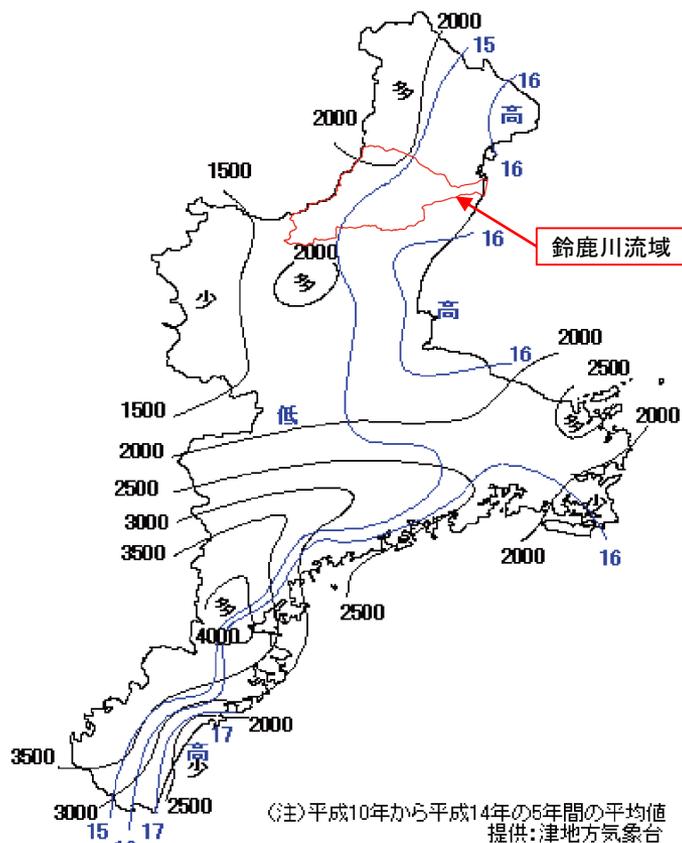
□ 上流域の山地部は主に花崗岩で構成され、中下流域の段丘部や扇状地性低地は砂岩・泥岩や未固結の礫にて構成される。





- ❑ 鈴鹿川流域の過去10年間(平成19年～平成28年)の年平均気温は15.6℃で四季を通じて温暖である。
- ❑ 平均年間降水量は亀山1,951mm、四日市1,906mmで、全国平均1,690\*mm(昭和56年～平成22年までの平均値)を上回る。

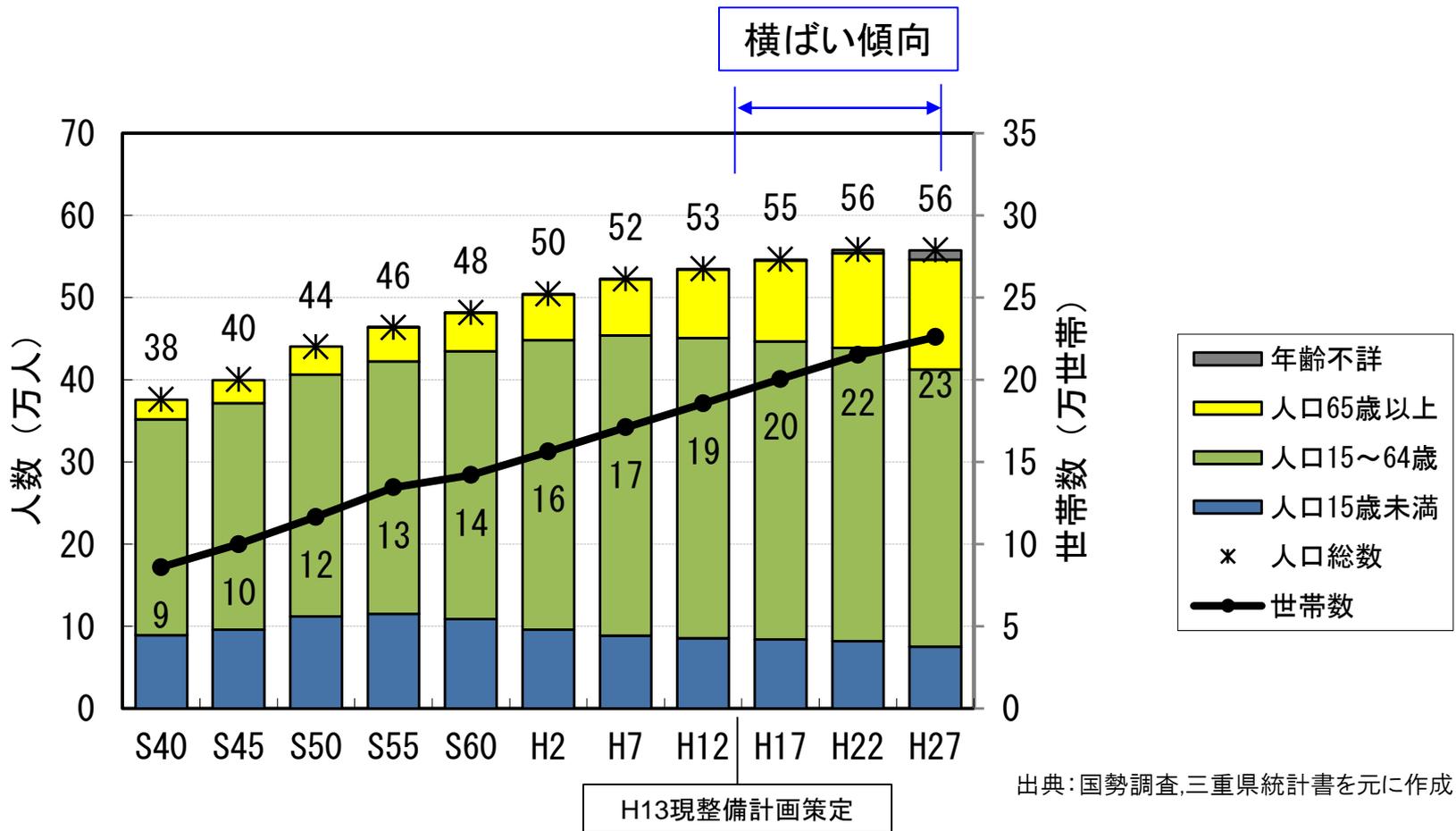
図10 年平均気温(℃)・降水量(mm)



\*平成27年度版日本の水資源の現況について(S53年からH22年の全国約1300地点の資料をもとに国土交通省水資源部で算出)

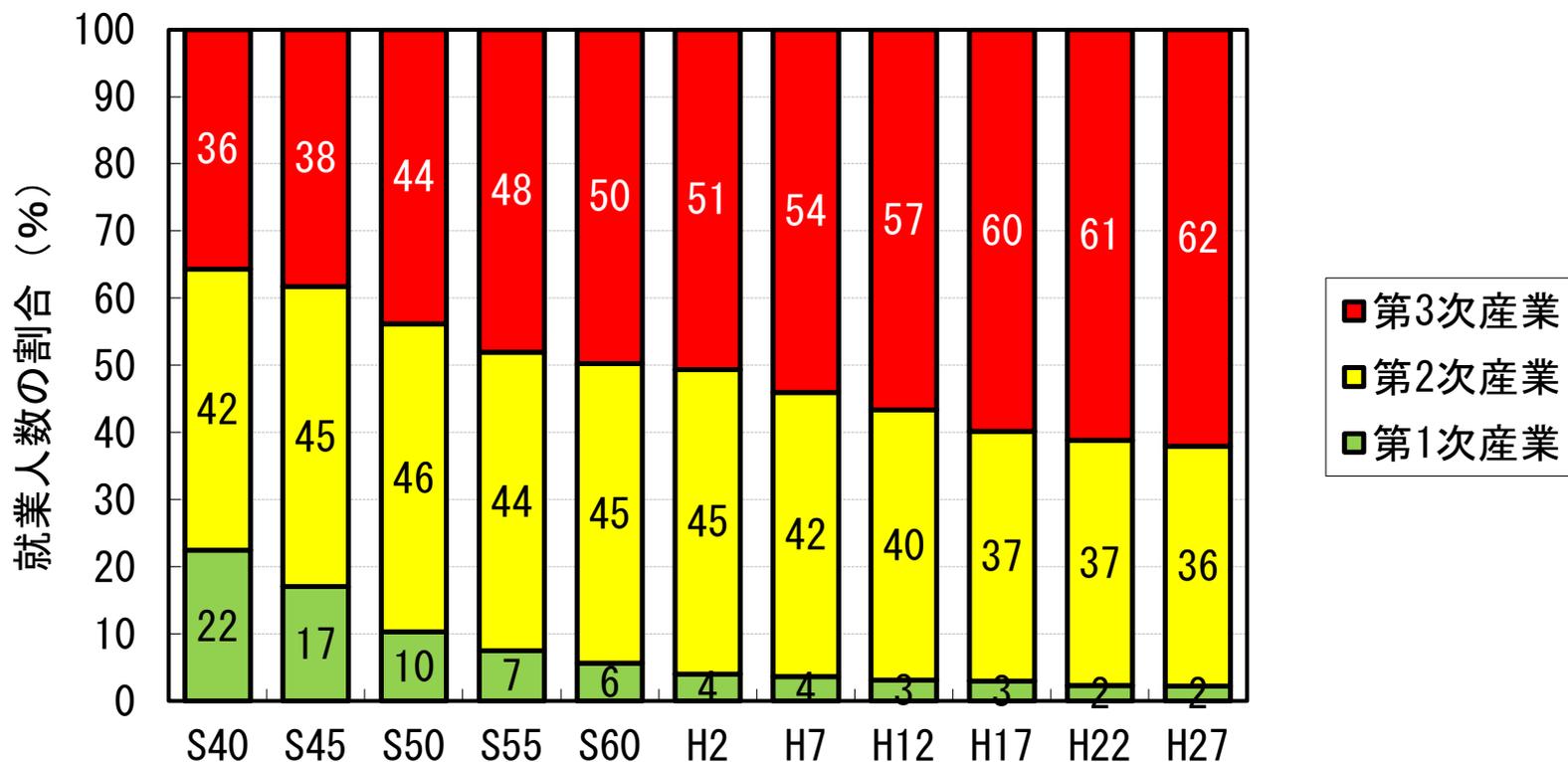


- 鈴鹿川流域の関係市(四日市市、鈴鹿市、亀山市)の総人口は、平成27年時点で約56万人、総世帯数は約23万世帯である。
- 経年的には、人口はH17頃まで漸増、H17以降は横ばい傾向である。65歳以上の人口及び世帯数はH27まで増加している。





- 鈴鹿川流域の関係市(四日市市、鈴鹿市、亀山市)では、昭和40年と平成27年を比較すると第1次産業に従事する人の割合が大きく減少し、第3次産業に従事する人の割合が増加している。

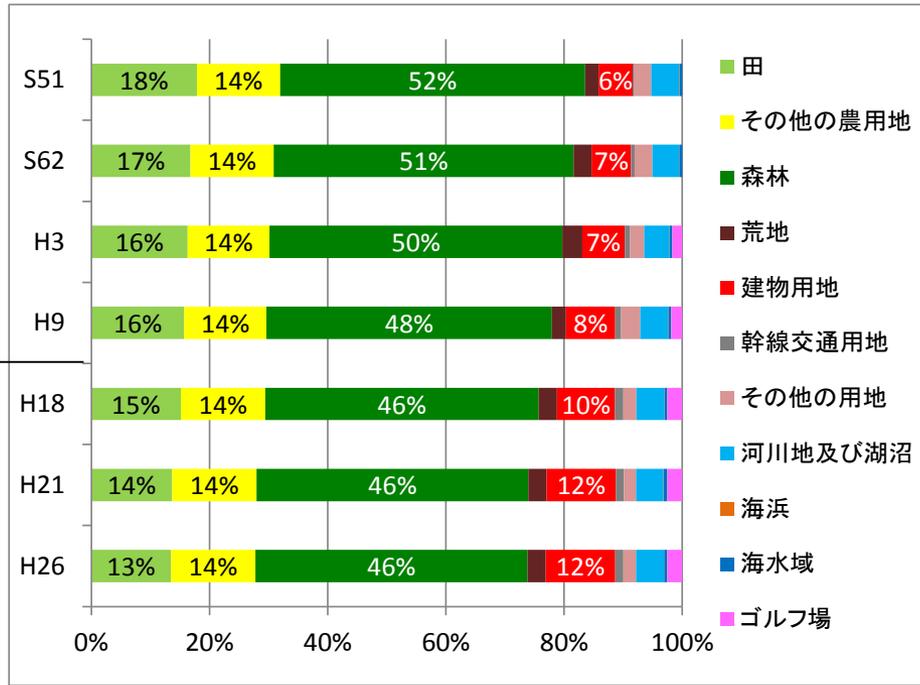


出典：国勢調査,三重県統計書を元に作成

# 土地利用の変遷

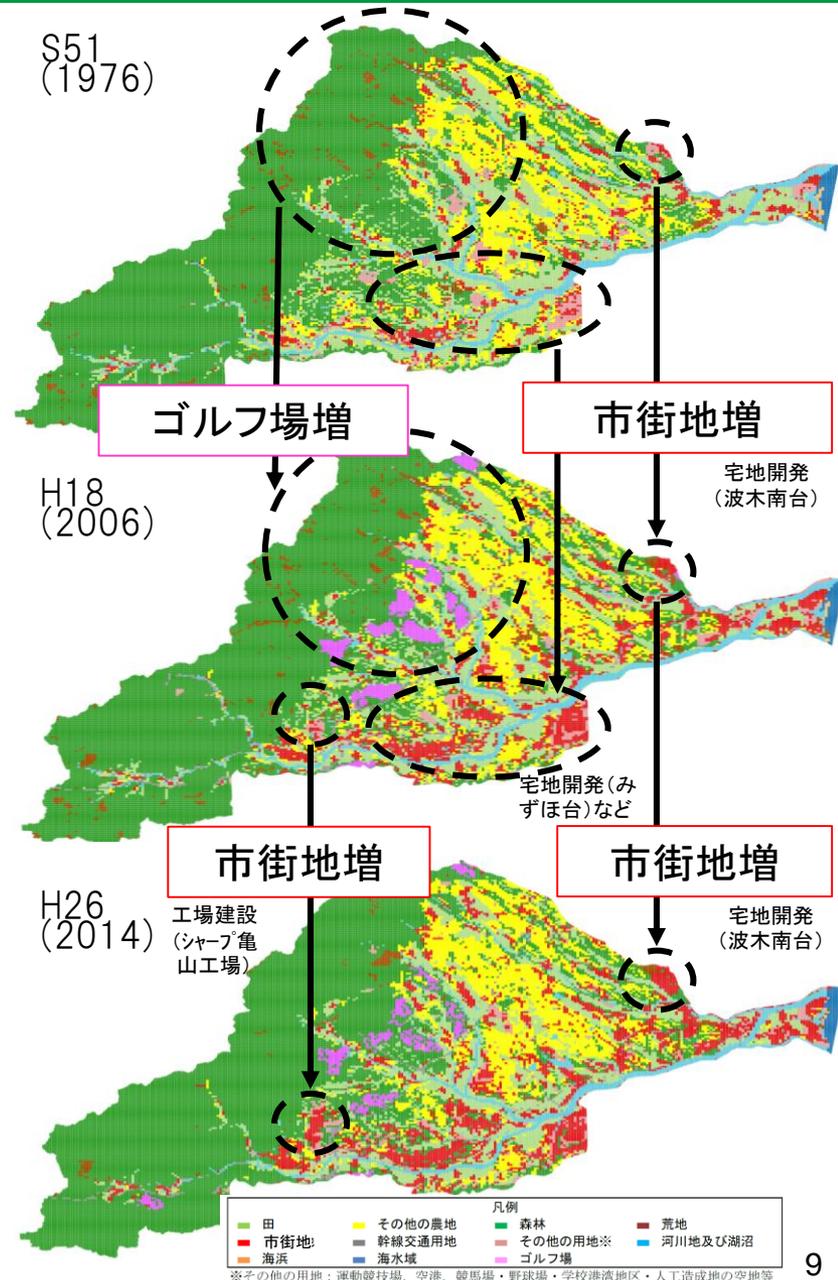


- 市街地は漸増傾向（S51→H18に4%増、H18→H21に2%増）であるが、近年のH21からH26にかけては横ばい傾向である。
- 水田は減少傾向（S51→H26に5%減）。



※その他の用地：運動競技場、空港、競馬場・野球場・学校港湾地区・人工造成地の空地等

出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ



- 鈴鹿川流域には、古代には古代三関の一つである「鈴鹿の関」が置かれ、近世は東海道や大和街道等が通るなど重要な交通の要衝となっていた。
- 奈良時代には伊勢国分寺や伊勢国府が置かれ、かつてはこの地域の経済、文化の中心地であった。

### 【原始・古代】

流域周辺では、海岸線近くまで弥生式遺跡が分布しており、古来より人々が定住していた。3~4世紀に入ると、下流部の平野部のみならず、沿岸の氾濫により水田が開拓された。鈴鹿川沿いは重要な交通路として利用されており、古代の三関である「鈴鹿の関」も整備された。

### 【中世】

奈良時代には伊勢国分寺や伊勢国府が置かれ、かつてはこの地域の中心地であった。平安時代に入ると伊勢神宮などを領主とする荘園が置かれ、現在の特産品である「鈴鹿茶」や「亀山茶」のルーツと考えられている茶樹の植培が行われた。室町後期からは、四日市市において旧東海道の位置する市と湊が合わさり、町場化して発展した。

### 【近世】

江戸時代には、旧東海道の宿駅が置かれ、重要な交通の要衝となっていた（流域内の宿駅：石薬師宿、庄野宿、亀山宿、関宿、坂下宿）。

### 【近現代】

明治から昭和初期にかけては鉄道やバスの整備が始まり、蚕糸業が栄えた。戦後では軍用地は工業用地として転用され、今日の産業の基盤となった。また、国道1号や東名阪自動車道などの交通網、電気・上下水などのインフラ整備がなされ、住宅団地や工業団地の造成も進んでいる。

S42には、鈴鹿市が鈴鹿郡鈴峰村を編入、H17には、四日市市が三重郡楠町を編入、亀山市は鈴鹿郡関町を編入して、現在の市域となった。







## 2. 主要洪水の概要



# ■主要洪水の概要（外水による被害）

- 指定区間から溢水氾濫が生じ、家屋被害が生じた洪水を抽出。家屋被害が生じた河川は、芥川(S49)、足見川(S49,S63)、鎌谷川(S49)、内部川(S49)、安楽川(S49)、椋川(S49,S51,H5,H7)、竜川(S49)、鈴鹿川上流(S58,S63)の8河川。近年は、溢水氾濫による浸水被害は生じていない。
- 降雨規模は、S49.7洪水が最大(1時間最大雨量で100.0mm/hr)。次にH7.5洪水の降雨規模が大きく、1時間最大雨量で80.0mm/hrを記録。

河川名	主要洪水		浸水戸数※3		水害原因	1時間最大雨量mm※1	雨量確率※2
	洪水ID	豪雨	床下	床上			
芥川、足見川、 鎌谷川、内部川、 安楽川、椋川、竜川	S49.7 ~8	豪雨	床下985	床上498	無堤部および有堤部 溢水・内水	100.0（亀山〔国〕）	約1/110
椋川	S51.9	台風17号と豪雨	床下2	-	無堤部溢水、内水	40.0（亀山〔気〕）	1/5未満
鈴鹿川	S58.8	豪雨	床下13	-	有堤部溢水	46.0（椿〔国〕）	1/5未満
足見川	S63.6 ~7	豪雨	床下1	-	無堤部溢水	44.0（鈴鹿〔国〕）	1/5未満
鈴鹿川		豪雨	床下3	-	無堤部溢水	44.0（鈴鹿〔国〕）	1/5未満
椋川	H5.9	豪雨	床下6	床上4	有堤部溢水	56.0（亀山〔気〕）	約1/5
椋川	H7.5	豪雨	床下18	床上2	有堤部溢水	80.0（亀山〔気〕）	約1/25
鈴鹿川	H9.6~7	豪雨	床下3	-	無堤部溢水	69.0（加太〔国〕）	約1/10

出典：水害統計

※1 雨量：近傍の雨量観測所の観測値を記載

※2 雨量確率は四日市にて評価

※3 S49洪水の浸水戸数は、鈴鹿指定区間全川の合計



# ■主要洪水の概要（内水のみ被害）

- 指定区間の流域で内水氾濫のみが生じ、家屋被害が生じた洪水を抽出。
- 家屋被害が生じた河川は、鎌谷川(H24)、浪瀬川(H24)、椋川(H24)、足見川(H24)、小池川(H24)、芥川(H24,H26)、内部川(H24)、鈴鹿川(H24)の8河川。
- 降雨規模は、H24.9洪水が最大(1時間最大雨量で70.0～80.0mm/hr程度)。

河川名	主要洪水		浸水戸数		水害原因	1時間 最大雨量mm※1	雨量 確率※2
	発生時期	原因	床下	床上			
鎌谷川	H24.9上旬	豪雨	-	床上1	内水	30.0（四日市〔気〕） 66.0（山之坊〔国〕）	1/5未満 約1/10
浪瀬川	H24.9下旬 ～10	台風17号	床下6	-		70.0（四日市〔気〕） 79.0（加佐登〔国〕） 84.0（亀山〔国〕）	約1/10
椋川			床下4	床上9			
足見川			床下2	-			
小池川			床下21	床上2			
芥川			床下20	-			
内部川			床下34	-			
鈴鹿川			床下2	-			
芥川	H26.7～8	台風11・12号	床下1	-		38.5（四日市〔気〕） 59.0（亀山〔国〕）	1/5未満 約1/5

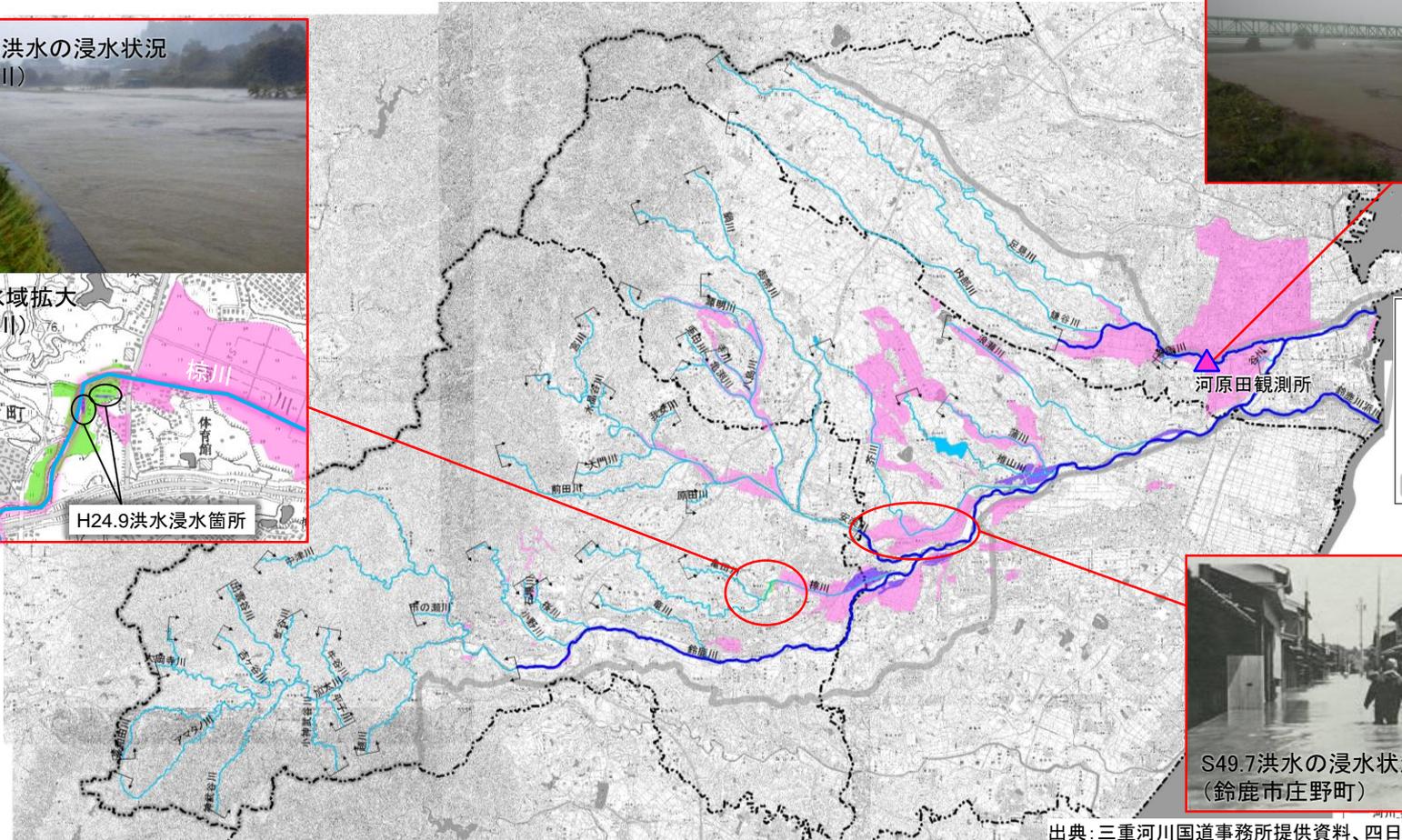
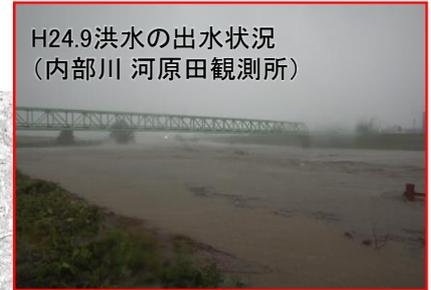
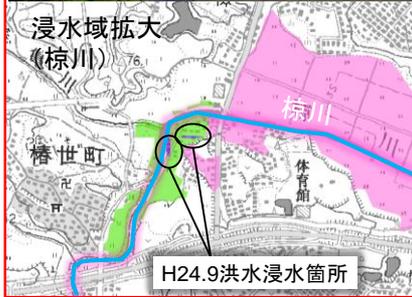
出典：水害統計

※1 雨量：近傍の雨量観測所の観測値を記載

※2 雨量確率は四日市にて評価

# ■主要洪水の概要（浸水実績）

- S49.7洪水：戦後最大流量を記録した洪水。直轄区間の河積不足及び支川の破堤等により、広範囲にわたり被害が発生。
- H7.5洪水：住宅や田畑、道路への冠水被害が発生（棕川）。
- H24.9洪水：内水被害が発生。



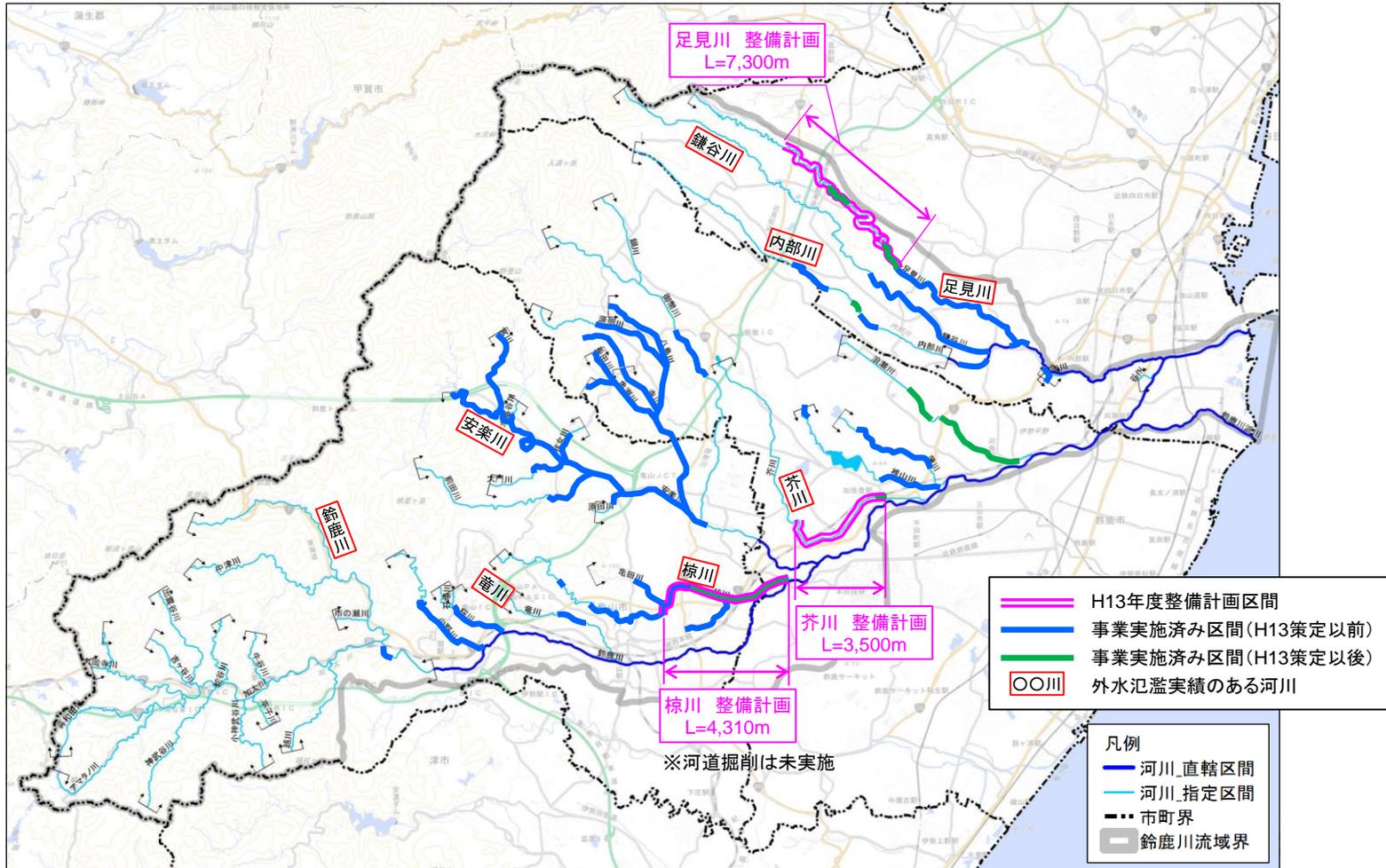


### **3. 河川の整備状況〔指定区間〕**



# 河川の整備状況（指定区間）

- S49災等を受け指定区間の殆どにて改修を実施したが、足見川・芥川は未対策として残った。平成13年に、未対策河川(足見川・芥川)と、再度災を受けた椋川を対象とし、鈴鹿川水系(指定区間)河川整備計画を策定(H13.1.5認可)、現在改修中。その後、H24.9の内水被害を受け、浪瀬川の改修を実施(完了済)。

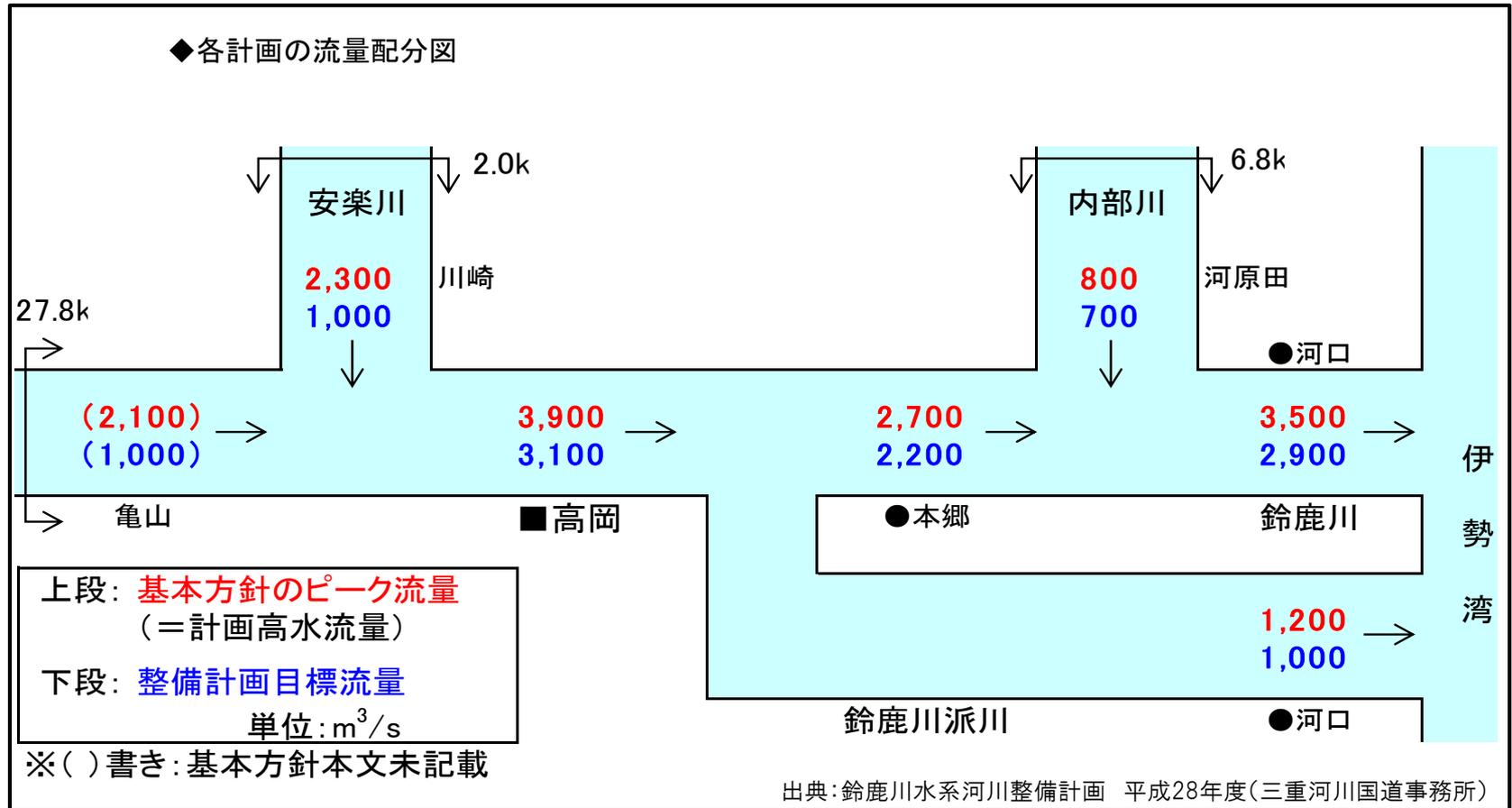




## 4. 河川の整備状況〔直轄区間〕

# 河川の整備状況（直轄区間）

- 鈴鹿川水系河川整備基本方針では、既往洪水を検討し高岡基準地点においてのピーク流量は $3,900\text{m}^3/\text{s}$ 。
- 河川整備計画では、河川整備基本方針で定めた最終目標に向けた段階的な整備として、戦後第2位の降雨規模。高岡基準地点において $3,100\text{m}^3/\text{s}$ とし、外水氾濫による家屋等の浸水被害を防止。

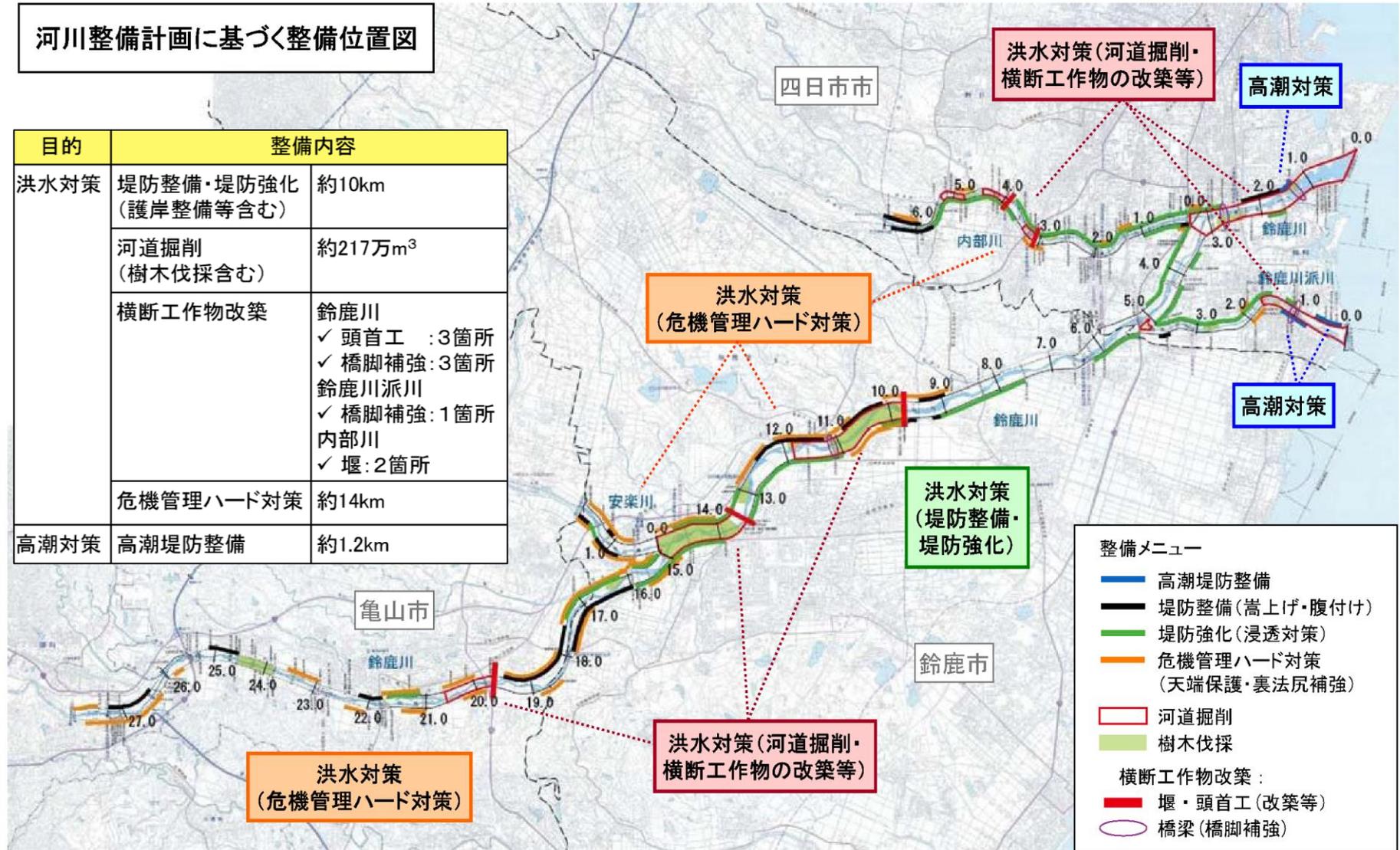


# 河川の整備状況（直轄区間）

□ 整備計画では、河道掘削や樹木伐採、堰頭首工の改築などを実施

河川整備計画に基づく整備位置図

目的	整備内容	
洪水対策	堤防整備・堤防強化 (護岸整備等含む)	約10km
	河道掘削 (樹木伐採含む)	約217万m <sup>3</sup>
	横断工作物改築	鈴鹿川 ✓ 頭首工 : 3箇所 ✓ 橋脚補強: 3箇所 鈴鹿川派川 ✓ 橋脚補強: 1箇所 内部川 ✓ 堰: 2箇所
	危機管理ハード対策	約14km
高潮対策	高潮堤防整備	約1.2km



出典: 鈴鹿川水系河川整備計画 平成28年度(三重河川国道事務所)



## **5. 河川整備計画〔指定区間〕の概要**

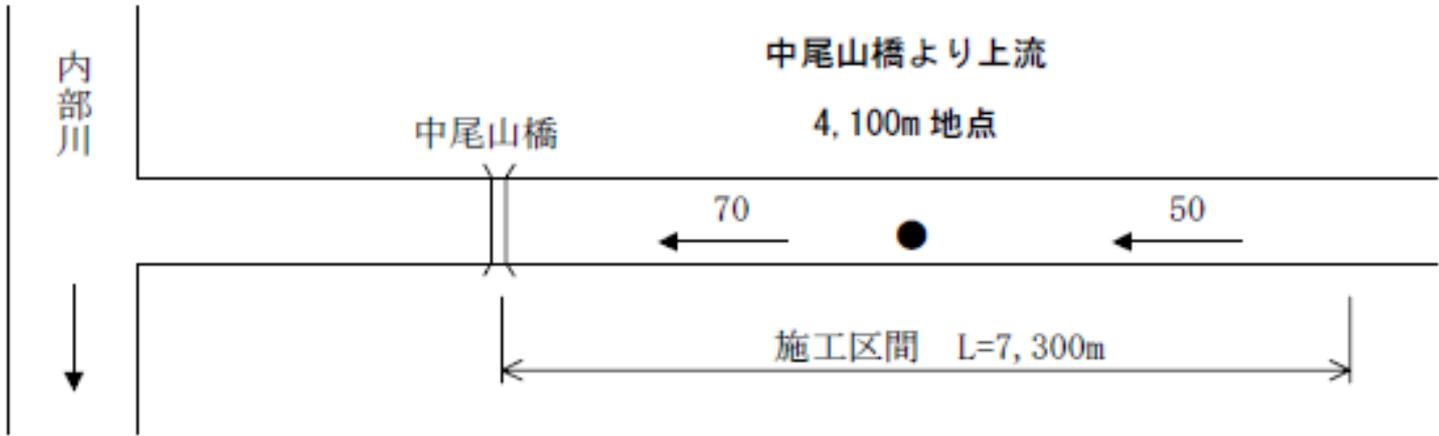
- 策定日：平成13年1月5日
- 対象期間：概ね20年間
- 対象河川：鈴鹿川水系指定区間(県管理区間)の全区間
- 河川工事の施工場所
  - ・足見川；中尾山橋地点より上流7,300mの区間
  - ・芥川；鈴鹿川合流点より上流1,200mから4,700mまでの3,500mの区間
  - ・椋川；鈴鹿川合流点付近小田樋門より上流4,310mの区間

出典：鈴鹿川水系(指定区間)河川整備計画資料(平成13年1月) 三重県



## 足見川

河川整備計画			
計画規模	1/5確率	降雨強度	57.6mm
基準地点	中尾山橋	流出計算手法	合理式
流域面積	5.55km <sup>2</sup>	計画高水流量	70m <sup>3</sup> /s
洪水到達時間	1hr		



●:流量変化点

図 足見川計画流量配分図(単位;m<sup>3</sup>/s)



## 芥川

河川整備計画			
計画規模	1/5確率	降雨強度	56.6mm
基準地点	国道1号橋	流出計算手法	合理式
流域面積	11.39km <sup>2</sup>	計画高水流量	125m <sup>3</sup> /s
洪水到達時間	1.17hr		

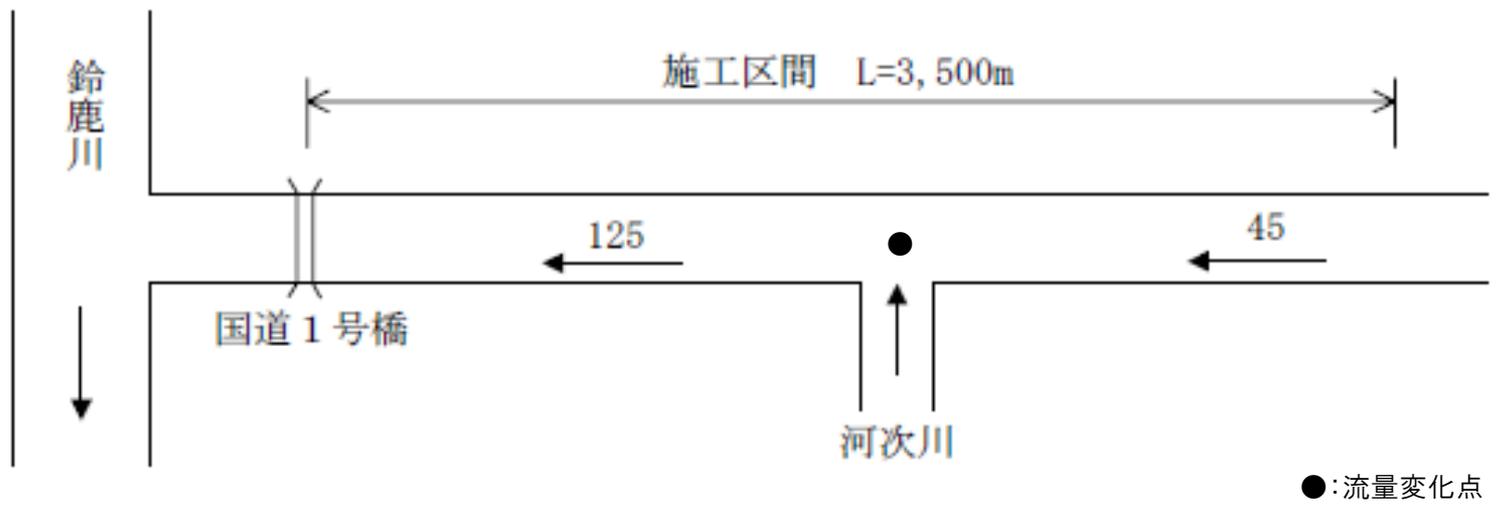


図 芥川計画流量配分図(単位;m<sup>3</sup>/s)



## 椋川

河川整備計画			
計画規模	1/20確率	降雨強度	80mm
基準地点	鈴鹿川合流点	流出計算手法	合理式
流域面積	17.0km <sup>2</sup>	計画高水流量	225m <sup>3</sup> /s
洪水到達時間	1.4hr		

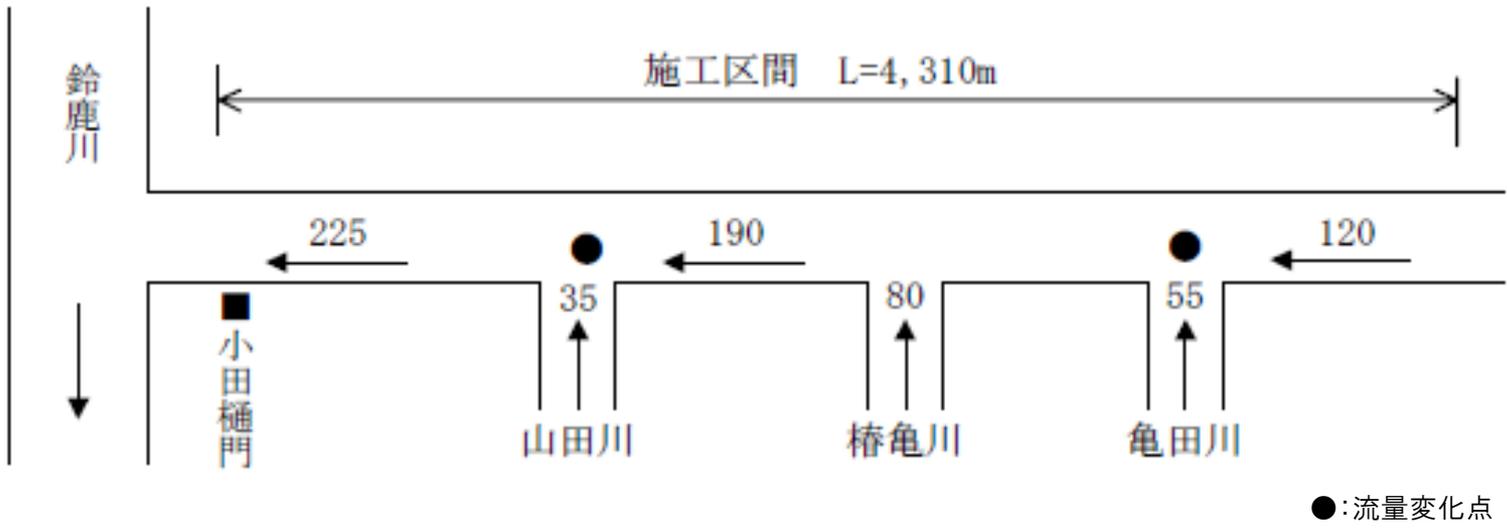
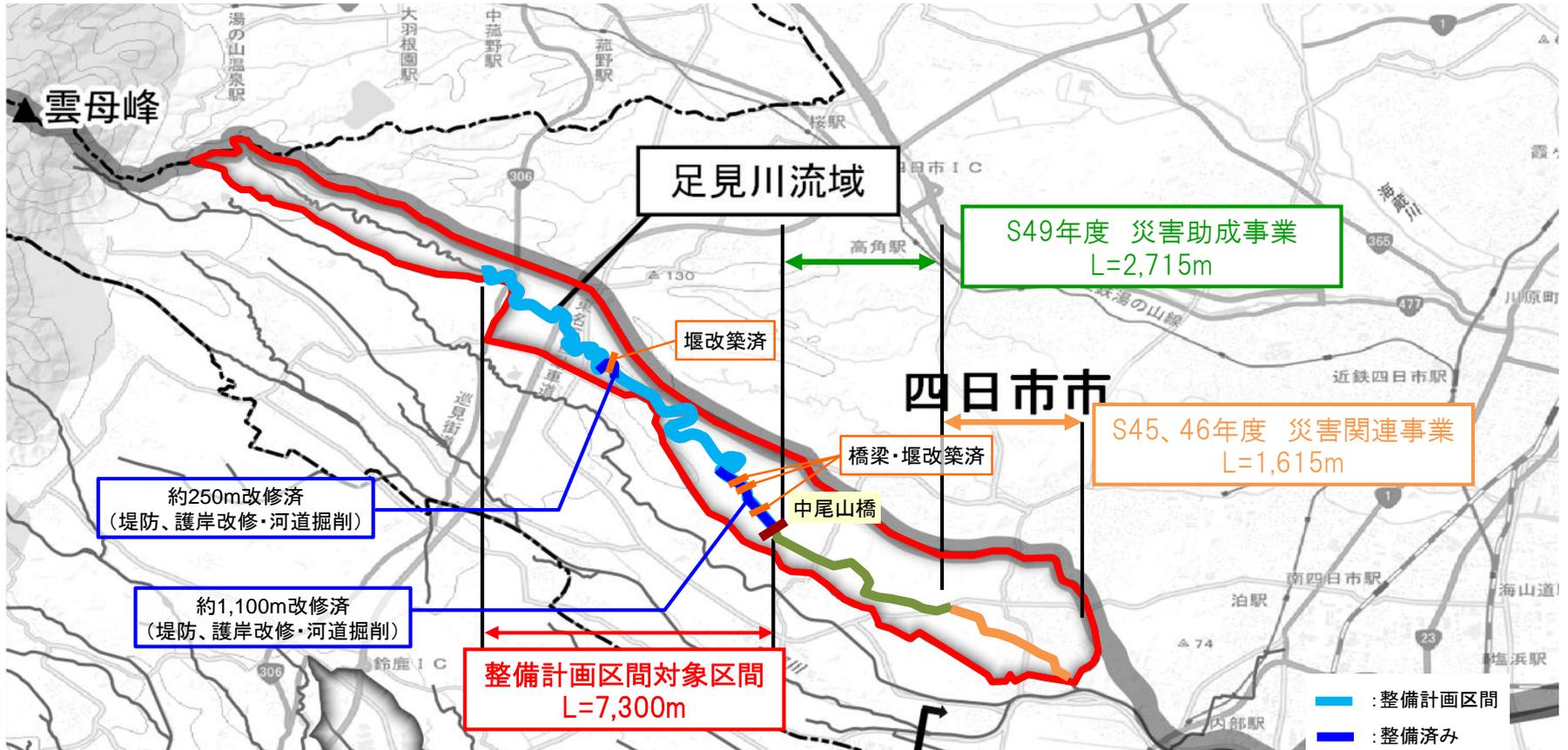


図 椋川計画流量配分図(単位;m<sup>3</sup>/s)

# ■現河川整備計画の整備状況

## ●現河川整備計画の整備状況(足見川)

- 内部川合流点より上流L=1,615mの区間において、S45・46年度災害関連事業を実施し、その上流L=2,715mの区間において、S49年度災害助成事業を実施した。
- 整備計画区間のL=7,300mにおいては、約1,350mの整備が完了。

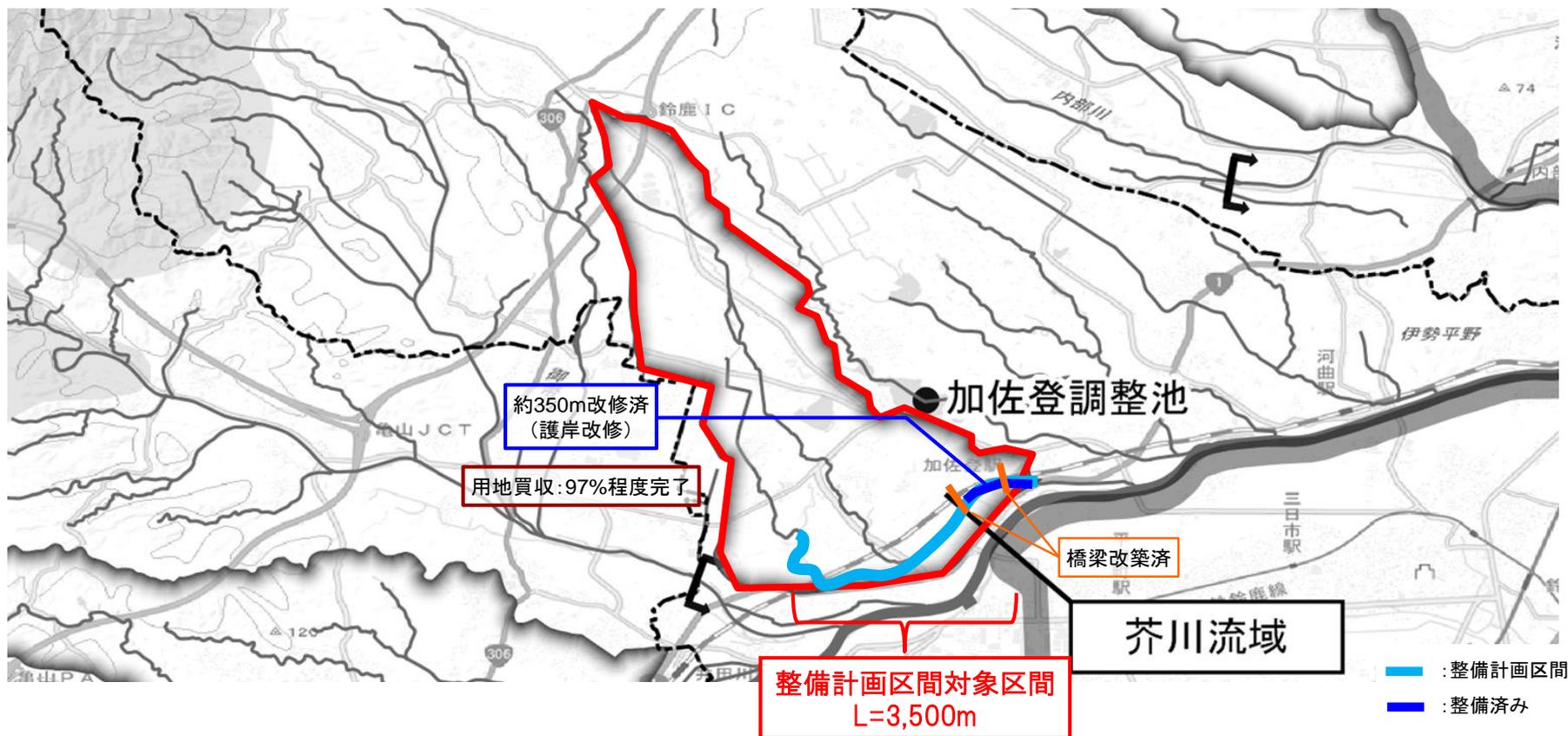


# ■現河川整備計画の整備状況



## ●現整備計画の整備状況(芥川)

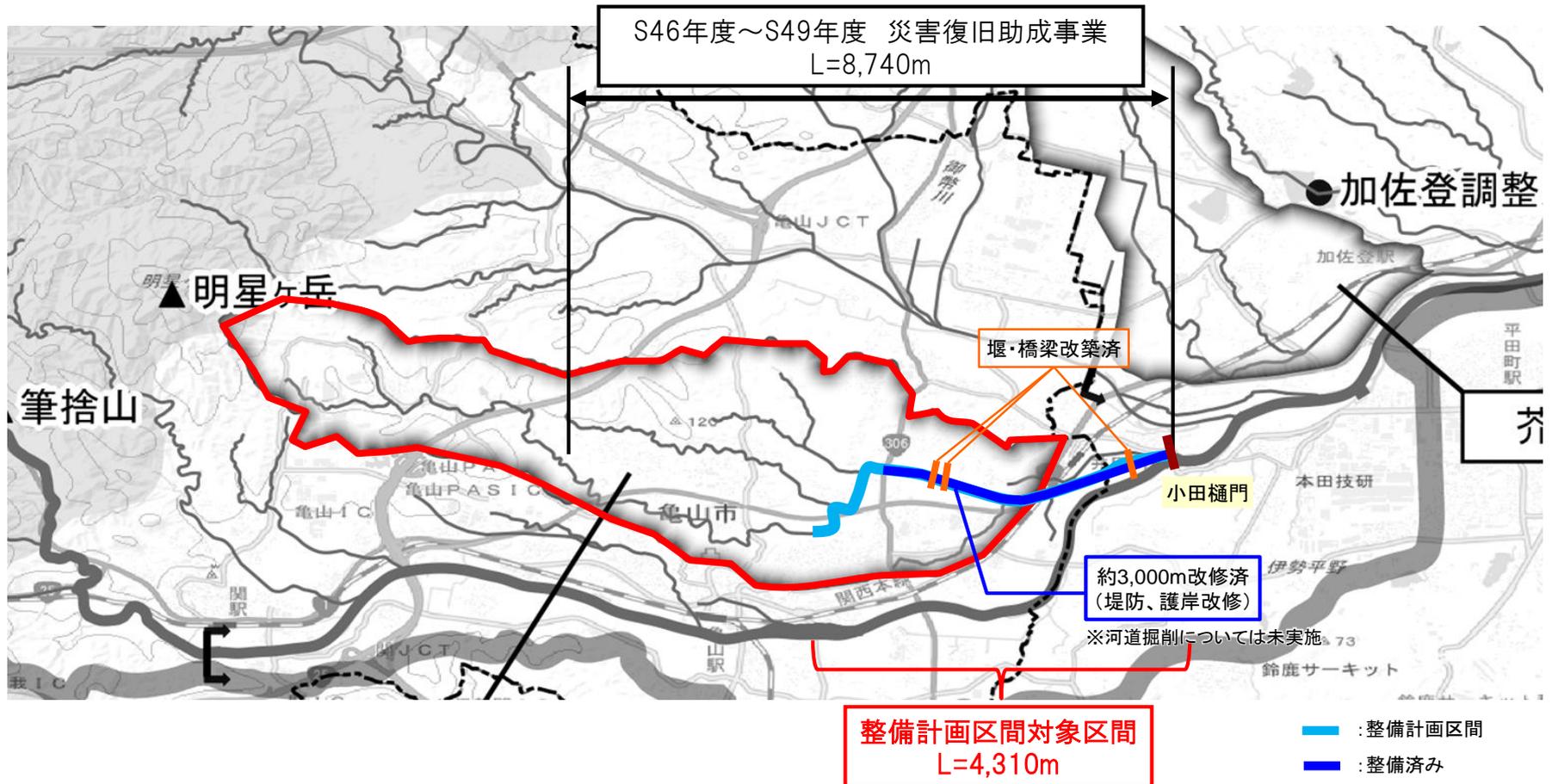
- 整備計画区間のL=3,500mにおいては、約350mの整備が完了。
- 用地買収については、98%完了。



# ■現河川整備計画の整備状況

## ●現整備計画の整備状況(椋川)

- 鈴鹿川合流点より上流の8,740mの区間において、S46年度からS49年度に災害復旧助成事業河川整備を実施した。
- 整備計画区間のL=4,310mにおいては、約3,000mの整備が完了。





## ●現整備計画の整備状況

		足見川	芥川	椋川
整備区間延長		7,300m	3,500m	4,310m
整備済み延長		約1,350m	約350m	約3,000m
完成率	築堤	2,697m/13,142m (21%)	240m/7,000m (3%)	2571m/8,600m (30%)
	掘削	15,230m <sup>3</sup> /128,600m <sup>3</sup> (12%)	25,670m <sup>3</sup> /143,660m <sup>3</sup> (18%)	5,020m <sup>3</sup> /73,200m <sup>3</sup> (7%)
	護岸	2,976m/13,142m (23%)	629m/7,000m (9%)	1,111m/4,600m (24%)
	床止工	4基/14基 (29%)	0基/5基 (0%)	0基/1基 (0%)
	橋梁改築	1橋/10橋 (10%)	3橋/9橋 (33%)	3橋/6橋 (50%)
	堰改築	3基/16基 (19%)	0基/1基 (0%)	2基/3基 (67%)
	用地買収	31,904m <sup>2</sup> /54,600m <sup>2</sup> (58%)	59,827m <sup>2</sup> /60,926m <sup>2</sup> (98%)	36,156m <sup>2</sup> /48,000m <sup>2</sup> (75%)

※完成率は、計画施工数量に対する現在の整備数量の比率から算定

## 整備計画の内容

### ●河道整備・環境

- 河道整備については、河積の不足している箇所を対象として、河床掘削及び河道拡幅、築堤等により流下断面の拡大を図る。
- 環境面では、隠し護岸により法面の植生化を図るとともに、環境水制等により流れに変化が生じるよう配慮する。
- 歴史・文化等にも配慮するとともに、多様な生物が生息・生育できる多自然型川づくりを実施する。

## 取組状況

### ●河道整備・環境

- 一部改修が完了



- 環境型ブロックによる法面の植生化等、環境への配慮が施されている。



足見川改修済区間の護岸状況  
(自然石ブロック)

## 整備計画の内容

### ●ソフト対策

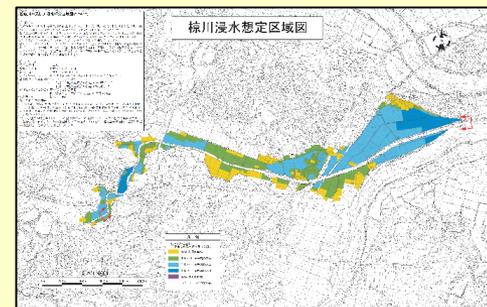
- 計画規模を超える洪水に対しては、地域との連携を図りつつ、水防活動や避難経路の確保等により洪水被害の防止または軽減に努める。
- 浸水実績図、浸水想定区域図等の作成を進めていくとともに、関係市町が、これらの情報及び避難経路を明示したハザードマップを作成・公表できるように働きかけていくものとする。
- 洪水時には水防活動を行なうために、河川水位などの情報を関係機関に提供できるよう努める。

出典：鈴鹿川水系(指定区間)河川整備計画資料(平成13年1月) 三重県

## 取組状況

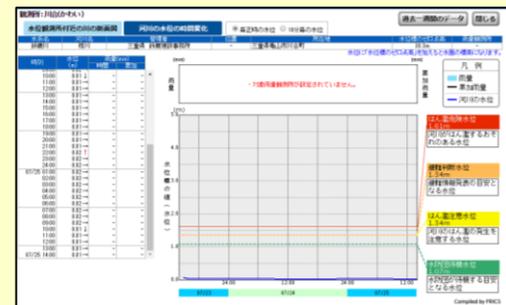
### ●ソフト対策

- 浸水想定区域図、ハザードマップを公表済み



椋川浸水想定区域図

- 対象河川のリアルタイム水位を公表済み



椋川の水位情報

出典：三重県ホームページ、防災みえ.jp、鈴鹿市ホームページより

# ■現河川整備計画の取り組み状況

## 整備計画の内容

### ●水利用

- 流量観測、動植物調査等の諸調査を行い、河川環境の実態の把握に努め、正常流量等の設定を行なうものとする。

### ●河川空間の利用

- 地域の活動および学校教育等との連携を図り、河川愛護月間等における行事を通じて、住民の理解と協力を得るものとする。

出典：鈴鹿川水系(指定区間)河川整備計画資料(平成13年1月) 三重県

## 取組状況

### ●水利用

- 水辺の国勢調査を平成15年度および平成20年度で実施している。
- また、H13整備計画策定前より湧水流量の傾向に変化はなく、現時点で湧水被害はなし。

### ●河川空間の利用

- 河川愛護運動として、ポスターの募集や流木・粗大ゴミの回収を毎年実施
- 河川の美化活動を行なう団体を支援するための事業(例：フラワーオアシス、草刈り作業の自治会等への業務委託等)



出典：三重県ホームページより

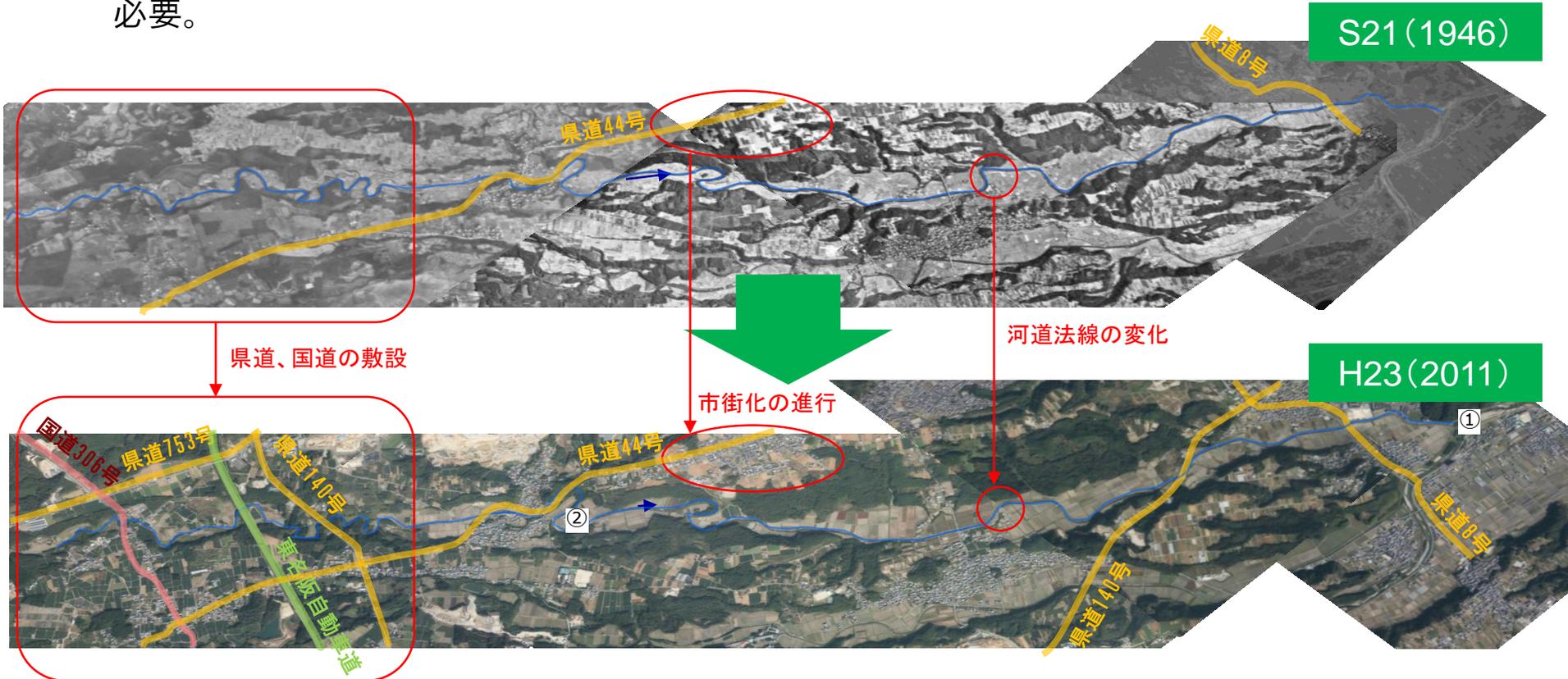


## 6. 河道の変遷

# 河道の変遷<足見川>



- S21～H23の間で県道753号、県道140号、県道44号、国道306号、県道637号、東名阪自動車道が敷設され、周辺は僅かに市街化が進行している。河道法線は、一部を除き変化なし。
- 現整備計画策定時より、河積阻害となる植生の繁茂が進行している箇所も見られ、維持管理が必要。



①H13



①H29



②H13



②H29

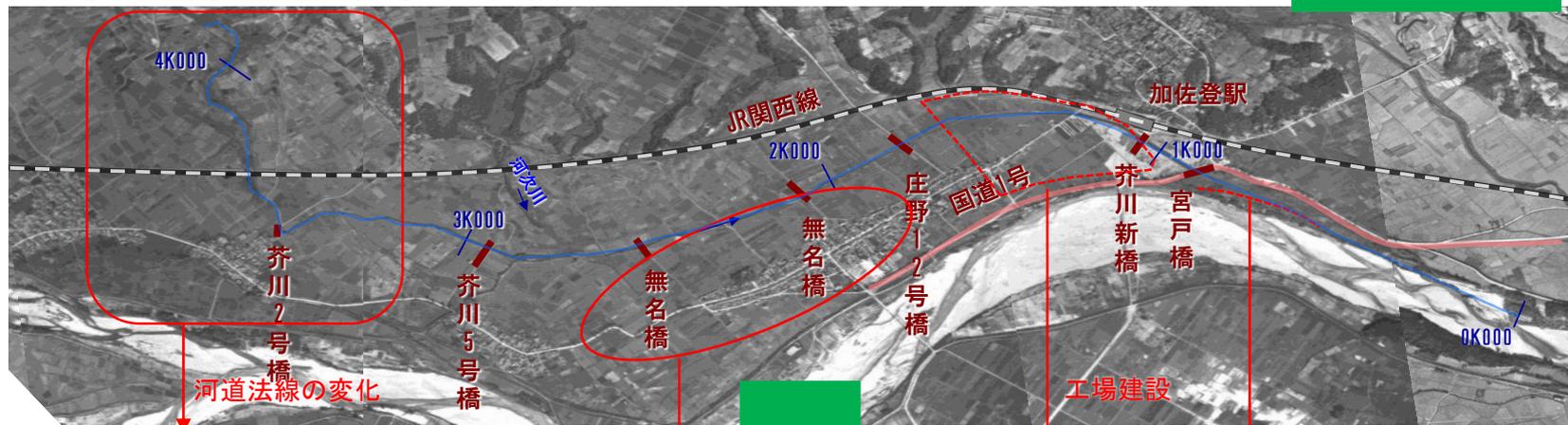


# 河道の変遷<芥川>

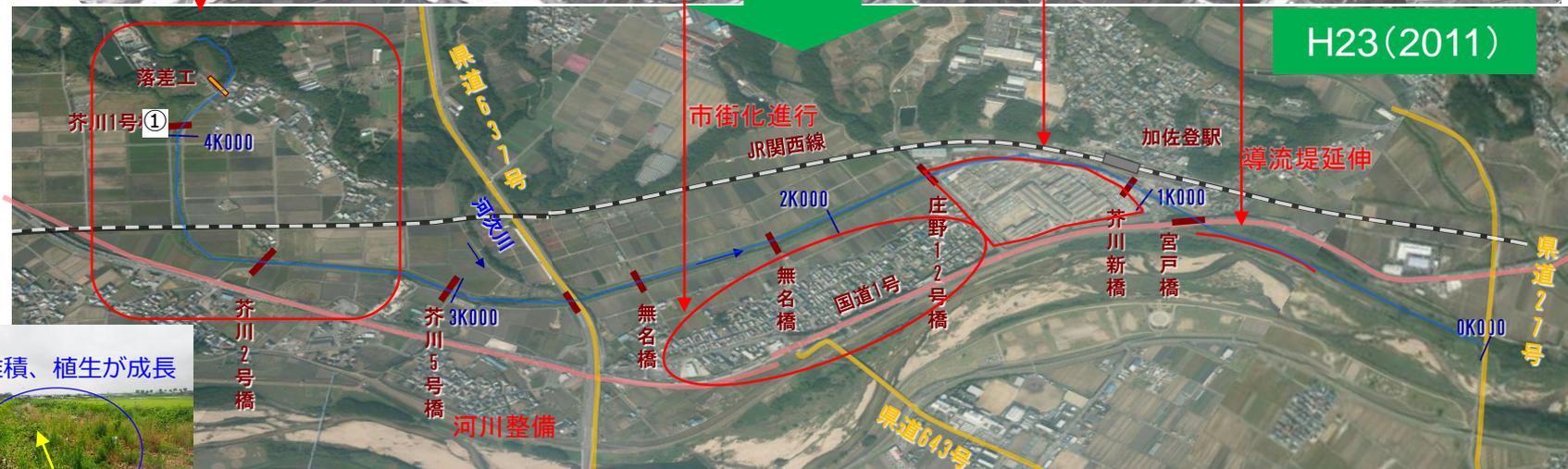


- S21～H23の間で県道27号が敷設され、国道1号、県道637号が延伸。国道沿いは市街化傾向。河川整備により上流部の河道法線は大きく変化。
- 河積阻害となる植生の繁茂が進行している箇所も見られ、維持管理が必要。
- 鈴鹿川合流点にて導流堤が延伸された。

S21(1946)



H23(2011)



①H29  
土砂堆積、植生が成長

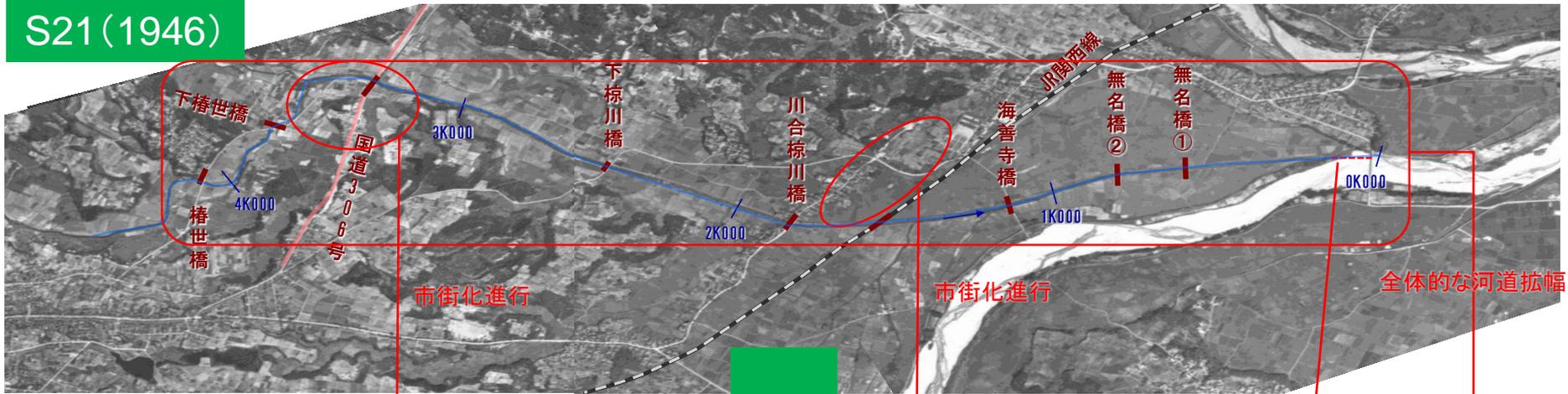


※H13当時の写真なし

# 河道の変遷<椋川>

- 国道1号、国道306号が延伸し、周辺は市街化傾向。
- 河道法線に大きな変化は見られないが、事業により全体的な河道拡幅が行なわれている。
- 鈴鹿川合流点にて導流堤が延伸された。

S21(1946)



H23(2011)



※H13当時の写真なし



# 7. 河川の利用状況

# 河川空間の利用状況、水利用

## 河川の水利用

- ✓ 鈴鹿川水系指定区間における河川の水利用は、沿川一帯の稲作かんがい用を目的としたものがほとんどである。
- ✓ 鈴鹿川水系指定区間における許可水利権は全部で79件、このうち対象3河川に係る許可水利権は芥川に1件、椋川に1件
- ✓ 鈴鹿川水系指定区間における慣行水利権は全部で393件、このうち対象3河川に係る慣行水利権は足見川に47件、芥川に2件、椋川に24件
- ✓ これまでに大きな渇水はなし

## 鈴鹿川の利用実態

- ✓ 平成10年度の住民意識調査にて、足見川流域、芥川流域、椋川流域の住民を対象にアンケートが行なわれている。
- ✓ 河川の利用目的に対する問いでは、「散歩」や「自然観察」としての利用が挙げられている。

出展：H13年度整備計画資料より



芥川



足見川



椋川

区分	井堰名	使用目的	最大取水量	灌漑時期
許可水利権	吉原用水	かんがい	0.24m <sup>3</sup> /s	稲作期間
許可水利権	沼利頭首工	かんがい	0.13m <sup>3</sup> /s	稲作期間



出典：H20鈴鹿川水系河川整備基本方針 流域概要資料



## 8. 対象3河川の流域環境

# ■対象3 河川の流域環境（足見川）

## ●植生

- H29.7に現地調査を実施し、メダケやササの高木群、河道内ではツルヨシ、クズなどが確認された。特に、外来種である**セイタカアワダチソウ**が多く確認された。
- 文献では流域内で**ミズワラビ**、**スズサイコ**、**イトモ**等、14種の重要種が確認されている。
- H13年度整備計画策定時より大きな変化は見られない。



## ●鳥類

- H29.7に現地調査を実施し、ハクセキレイ、スズメ、サギ類等、計34種確認。そのうち重要種は**チュウサギ**、**ケリ**、**サシバ**の3種で、外来種は確認されなかった。
- 文献では流域内で**ハイタカ**、**イカルチドリ**等、6種の重要種が確認されている。

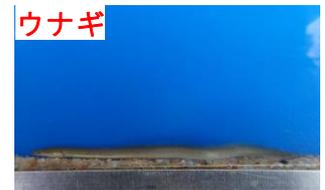


## ●魚類



出典：H20 一級河川鈴鹿川水系 河川環境調査(魚類)

- H20年度に鈴鹿川水系6地点で河川環境調査を実施し、計15種の魚類を確認。
- 重要種：**ホトケドジョウ**、**メダカ**、**ウナギ**、計3種
- 外来種：特定外来種である**オオクチバス**
- H15年度調査時より大きな変化は見られないが、重要種の**ウナギ**が新たに確認されている。



赤字：重要種 青字：外来種

写真出典

- H28年現地調査にて撮影(セイタカアワダチソウ、ウナギ)
- 『川の生物図典』リバーフロント整備センター編、山海堂、1996(チュウサギ)
- 『フィールド総合図鑑 川の生物』リバーフロント整備センター編、山海堂、1996(ホトケドジョウ)
- 大分県ホームページ<http://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/01/sd026.html>(ミズワラビ)
- サシバの保護の進め方 環境省 平成25年12月

出典

- H29.7ラインセンサス調査(植生・鳥類)※実施機関：7.13～7.18
- H25年度絶滅危惧種分布図※河道付近のメッシュデータから整理(※河道外の確認種も含まれる)
- 環境省レッドリスト2017
- 鈴鹿川水系(指定区間)河川整備計画資料(H13年1月) 三重県

# ■対象3 河川の流域環境（芥川）

## ●植生

- H29.7に現地調査を実施し、メダケやササの高木群、河道内ではツルヨシ、クズなどが確認された。特に、外来種である**セイタカアワダチソウ**が多く確認された。
- 文献では流域内で**ミズワラビ**、**ウンヌケモドキ**、**ミクリ**等、9種の重要種が確認されている。
- H13年度整備計画策定時より大きな変化は見られない。



## ●鳥類

- H29.7に現地調査を実施し、ハクセキレイ、スズメ、サギ類等、計21種確認。重要種、外来種は確認されなかった。

## ●哺乳類

- H29.7に現地調査を実施し、河道内にて**ヌートリア**（特定外来種）を確認
- 文献では、流域内でニホンザル、イノシシ、キツネ、タヌキ等が分布し、重要種である**ニホンリス**が確認されている。



## ●魚類



出典:H20 一級河川鈴鹿川水系 河川環境調査(魚類)

- H20年度に鈴鹿川水系6地点で河川環境調査を実施し、計18種の魚類を確認。
- 重要種:**メダカ**
- 外来種:**カダヤシ**、特定外来種である**ブルーギル**
- H15年度調査時より大きな変化は見られない。



赤字：重要種    青字：外来種

出典  
 ・H29.7ラインセンサス調査(植生・鳥類)※実施機関:7.13~7.18  
 ・H25年度絶滅危惧種分布図※河道付近のメッシュデータから整理(※河道外の確認種も含まれる)  
 ・環境省レッドリスト2017  
 ・鈴鹿川水系(指定区間)河川整備計画資料(H13年1月) 三重県

写真出典  
 ・H28年現地調査にて撮影(セイタカアワダチソウ)  
 ・『川の生物図典』リバーフロント整備センター編,山海堂,1996(ミクリ、ハクセキレイ、メダカ、ブルーギル)  
 ・環境省HP「外来種写真集」(ヌートリア)  
 ・大分県ホームページ<http://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/01/sd026.html>(ミズワラビ)

# ■対象3 河川の流域環境（椋川）

## ●植生

- H29.7に現地調査を実施し、メダケやササの高木群、河道内ではツルヨシ、クズなどが確認された。特に、外来種である**セイタカアワダチソウ**が多く確認された。
- 文献では流域内で**ミズワラビ**、**ミヤコノツチゴケ**等、6種の重要種が確認されている。
- H13年度整備計画策定時より大きな変化は見られない。



## ●鳥類

- H29.7に現地調査を実施し、ハクセキレイ、スズメ、サギ類等、計27種確認。そのうち重要種は**チュウサギ**、**ケリ**、**オオタカ**の3種で、外来種は確認されなかった。
- 文献では流域内で**ハイタカ**、**イカルチドリ**、**コチドリ**等、8種の重要種が確認されている。



## ●魚類



出典: H20 一級河川鈴鹿川水系 河川環境調査(魚類)

- H20年度に鈴鹿川水系6地点で河川環境調査を実施し、計14種の魚類を確認。
- 重要種: **メダカ**、**トウカイヨシノボリ**
- 外来種: **カダヤシ**、特定外来種である**オオクチバス**
- H15年度調査時より大きな変化は見られないが、外来種の**カダヤシ**が新たに確認されている。



赤字: 重要種 青字: 外来種

出典  
 ・H29.7ラインセンサス調査(植生・鳥類)※実施機関:7.13~7.18  
 ・H25年度絶滅危惧種分布図※河道付近のメッシュデータから整理(※河道外の確認種も含まれる)  
 ・環境省レッドリスト2017  
 ・鈴鹿川水系(指定区間)河川整備計画資料(H13年1月) 三重県

写真出典  
 ・H28年現地調査にて撮影(セイタカアワダチソウ、カダヤシ、ケリ、オオタカ)  
 ・『川の生物図典』リバーフロント整備センター編、山海堂、1996(オオクチバス)  
 ・大分県ホームページ<http://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/01/sd026.html>(ミズワラビ)

# ■対象3河川の流域環境（水質）

- ❑ 鈴鹿川水系の水質汚濁に係る環境基準は、鈴鹿川本川では2類型（河口～鈴国橋までA類型、鈴国橋より上流AA類型）、内部川ではA類型、安楽川ではAA類型が指定されている。
- ❑ 指定区間3河川に最も近い調査地点は、河原田橋（内部川）、庄野橋（鈴鹿川）、中富田橋（鈴鹿川）である。
- ❑ 上記3地点において、BOD値環境基準を満たしている結果となっている。





# 9. 河川整備計画の見直し方針



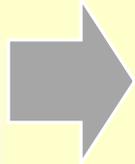
- 河川整備計画(指定区間)の整備期間は概ね20年
  - 整備目標の概ね20年間(平成32年まで)は、計画期間の満了に近づいている。残事業量と近年の予算配分の傾向等を考えると予定通り事業を完成させることは難しい見込み
- H20.6に鈴鹿水系の河川整備基本方針策定、H28.12に直轄区間の河川整備計画策定
  - 直轄区間と治水上の整合を図った整備計画とすることが必要



□ 以上を踏まえ、主に下記観点で河川整備計画の見直しを実施

### 整備対象河川

- 河川整備の進捗
- 水害実績



### 整備内容

- 整備区間
- 整備内容

# 河川整備計画の見直し方針

- 整備対象河川は、河川整備の進捗、水害実績、改修効果を総合的に勘案し、現行河川整備計画の対象河川を選定する。
- 今後、選定河川を対象とし、整備内容や整備区間の確認を行う。

被災河川	S49災 床上浸水 (棟)	S49災後の整備	過去の浸水被害				評価	選定河川	備考
			S49後～策定まで		策定以後				
			床上浸水(棟)	洪水	床上浸水(棟)	洪水			
鈴鹿川	273	一部改修済み	-	-	-	-	S49災以降は床上浸水が無く整備の必要性は低い。	-	
内部川	66	一部改修済み	-	-	-	-	S49災以降は床上浸水が無く整備の必要性は低い。	-	
鎌谷川	29	一部改修済み	-	-	-	-	S49災以降は床上浸水が無く整備の必要性は低い。	-	
足見川	5	一部改修、ただし未改修区間が残る	-	-	-	-	S49災対応が未整備であり整備を進める必要がある。	◎	背後地は主に水田
芥川	148	殆ど未改修	-	-	-	-	S49災対応が未整備であり整備を進める必要がある。	◎	背後地は宅地と水田が混在
安楽川	7	ほぼ改修済み	-	-	-	-	S49災以降は家屋浸水が無く整備の必要性は低い。	-	
椋川	141	一部改修済み	6	H5.9+H7.5 (再度災)	-	-	再度災区間が未整備であり整備を進める必要がある。	◎	背後地は宅地と水田が混在
竜川	102	ほぼ改修済み	-	-	-	-	S49災以降は家屋浸水が無く整備の必要性は低い。	-	



**現行河川整備計画の対象河川を選定  
(足見川、芥川、椋川)**

## ●河川整備計画の対象区間

- 鈴鹿川水系指定区間(県管理区間の全区間)を対象とする。  
⇒ 変更無し

## ●河川整備計画の整備期間

- 概ね20～30年間とする。  
⇒ 変更（現整備計画は概ね20年間）

## ●河川整備の実施に関する事項(河川工事の施工場所)

- 足見川 ➤ 未整備の区間については、引き続き現整備計画の予定通り整備を進めることを想定。
- 芥川 ➤ 改修中の直壁護岸は事業費が多大なため事業進捗が遅れたため、工法等を見直すなどして速やかに整備を進めることを想定。
- 椋川 ➤ 床上浸水のあった椋川上流部(国道306号付近)は未整備であるため、引き続き現整備計画の予定通り整備を進めることを想定。



# 10. 今後の予定

- 第1回 流域委員会（H29年8月3日） ←今回開催

- ✓ 流域の概要、現地確認

- 第1回 流域懇談会（H29年10月頃）

- ✓ 関係住民の意見聴取

- 第2回 流域委員会（H29年11月頃）

- ✓ 治水・利水・環境の現状・課題

- ✓ 河川整備計画の（骨子）の提示

- 第2回 流域懇談会（H29年12月頃）

- ✓ 関係住民の意見聴取

- 第3回 流域委員会（H30年1月頃）

- ✓ 河川整備計画（原案）の提示

- 関係機関協議 意見聴取

- 策定